

## 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 生協くさつ24

## 2019年3月実施 介護・医療連携推進会議議事録

出席：地域住民の代表者等：柿岡様（町内会長）、大迫様（民生委員）

地域の医療・介護関係者：安田様（訪問看護だんだん）、船倉（訪問看護コスモス）  
浴長（訪問看護草津かもめ）

市町村等：岸田様（庚午包括支援センター）

定期巡回職員：土井山、和田、山下

法人職員：田頭

## 利用状況（2018年10月~2019年3月）

	利用者数	平均介護度	新規	中止		利用者数	平均介護度	新規	中止
10月	14名	3.50	1	3	1月	10名	3.27	2	2
11月	11名	3.36	0	0	2月	11名	3.27	1	0
12月	11名	3.36	0	1	3月	12名	3.27	1	1

佐伯区 7件

西区 9件

依頼ケアマネ 自法人 9件 他法人 7件（土谷・ゆたか・はばたの里）

10月からの新規相談 10件 内5件受けることができませんでした。

参加者からの質問があり説明した。

ルートから大幅に外れた住所（大宮、舟入、楠木など）のためお断りした。

ケアマネジャーから依頼があり、退院時病院から勧められたというケースが多かった。

## 活動状況

昨年5月にお受けしたターミナルのご利用者様が、10月にご自宅で最期を迎えられました。くさつ24で〔おむつ交換・清拭・水分補給・着替え等〕、足りない部分は五日市ヘルパーステーションが自費サービスとして支援させていただきました。

開始当初は、1日4回（8:30・12:30・17:00・21:00）の訪問で、ご本人もとても意欲的で出来るだけ自分でやりたいと室内をご自分で動かしていました。1週間後には、痛みが強くなり、熱発、薬の副作用からくる嘔気など体調の変化が顕著となってきました。徐々にご自分で動くことが出来なくなり、本人の不安や苦痛が大きくなり、ご家族を頻回に呼ばれるようになったため夜間2回（0:30・4:30）訪問を増やしました。また、本人の負担が少ない介助をするため事業所内で話し合いを重ね、スライディングシートを使用する等工夫したり、常に訪問看護と連絡を取り合いながら対応しました。

ご本人も病気を「受容」されておられましたが、時には心が揺らぎ、「怒り」や「不安」を訴えられることもありました。ご家族や周囲の方にとっても苦しい期間だったと思います。出来るだけコミュニケーションをとり不安を取り除き、ご本人が望む最後が迎えられるよう支援しました。

また、ターミナルの方で、ご自宅で最期をと希望され、お問い合わせいただいた方が2件ありました。2件の内1件は退院できず、1件は自宅に帰られ6日目に状態が悪化し再入院となりお亡くなりになりました。

病気による死を宣告された人の心理状態やプロセスを介助者も受け入れ、ご本人の心の整理を少しでも支えて差し上げられるよう、これからもさらに学ぶことが望まれます。

## 事故・苦情

- 誤嚥事故  
食事介助時、チーズをのどに詰まらせた。
- 紛失  
20時の訪問時、明日の買い物のためのお金を預かり、ズボンのポケットに入れてしまった。
- ヘルパーの苦情  
介助時の声掛けやボディタッチが「怒られた」「叩かれた」と伝わってしまった。
- 運転業務にかかわる事故：2件

### 訪問看護からの意見

連携ノートをフル活用して情報共有している。指示はファックスなど紙ベースで行っている。わからないことがあったら、わからないままケアを続けてしまうのが良くないが、その都度問い合わせがあり、ちゃんとやってもらえているので安心。

アセスメントだけの利用者は月1回しか訪問しないので、状態が分かりにくいのが、日々の情報をファックスなどでこまめに知らせてもらえるので、よくわかっていい。

訪問看護が緊急で訪問する必要があるかどうか、定巡の訪問時に様子を見てもらえるので助かる。

訪問看護と定巡の訪問がかぶってしまったことがあり、訪看と定巡の連携が取れているのか利用者を不安にさせてしまったことがあった。

### 庚午包括支援センターからの意見

要支援の方が主なので、定巡は要介護の方のみ利用できるサービスなので疎い部分が多い。

年2回の包括主催の学習会にはいつも参加してもらっているが、ターミナルケアについてもやっているの、役に立てると思う。

他の地域密着型サービス（デイサービス、グループホームなど）の推進会議にも参加しているが、どこもどうやって地域に貢献するか模索しておられる。会議の内容についてはくさつ24と同じような感じ。

#### 地域貢献についての意見

地域からの相談も少なく、相談があっても要支援なら包括支援センターへ、要介護ならケアマネジャーが対応するので、定巡がどう関われるかわからない。

地域密着型サービスを理解してもらえていないので、ただの1事業所の利益のためにどうしても思われている。地域密着型サービスを理解してもらわないと地域の方は動いてくれない。

ケアマネジャーもわかっていないのに、地域の方がわかるわけがない。

くさつ24が地域にどのように関わるのかビジョンを持つ。

サンキでは法人内の地域密着型サービス全体で、学習会、学生の介護現場の見学を企画、地域の行事に参加、介護について講演する等やっていた。

まずは、地域のポイント事業の100歳体操の時に始まる前や終わってから5～10分程度の短い時間に介護についての話をしてみてもどうか。今元気人は介護についてあまり考えていない。自分の健康については関心がある。薬のことなど。介護が必要になった時どうやって始めればいいのか知らない人が多い。ターミナルって何？定巡を利用しながら在宅で看取ったという話をして、地域密着型サービスの理解を深める。地域密着型サービスにもいろいろあってその中の一つが定巡という流れで話せば受け入れやすいのではないか。